

南希タイムズ

横浜市立南希望が丘中学校
美術部 新聞班

編集長 .. 若松 彩花
記者 .. 小俣 純也
.. 若松 和樹
.. 中泉 文花

~現地取材 第二弾~ 歴史の詰まった横浜港に迫る! ~海運の世界にLet's go!~

取材講習会を通して知る 日本の物流と海運の関わり



七月二十一日(木)に行われた第二十九回中学生記者取材講習会に参加しました。この会は、新型コロナウイルスの影響で三年ぶりに開かれたそうです。まず始めに、横浜第二合同庁舎に集合し、大榎橋へバスで向かいました。大榎橋では、資料を基に横浜港の海運について説明してもらいました。そこは六度の増改築を経て、現在の姿になり、二〇〇二年から今の七代目のターミナルということになりました。

因みに、地面の隙間に小銭を落とす人が多いようで、改装工事の時に小銭がたくさん出てきたそうです。次に、横浜シンボルタワーに向かいました。大榎橋から横浜シンボルタワーにバスでの移動途中にはたくさん並んだコンテナを見ることができました。そのコンテナが運ぶ、首都圏で生産や消費されるコンテナ貨物の割合は日本全体で三割と圧倒的な物量を誇ります。横浜シンボルタワーでは、展望ラウンジ(高さ十二



防災センター

五メートル)という場所に上ることができました。そこからは、横浜港を行き交う船や横浜ベイブリッジ、コンテナターミナルなど港湾の様子が一望でき、とても綺麗で印象に残っています。最後に、行った防災センターでは、横浜港などで災害があった際に、対策を考えたり、それを実行したりする場所です。しかし、そこでは災害が起きし始めてからの対策だけではなく、日頃からいつ起きるか分からない災害にも備えていました。例えば、日中勤務職員のほか、夜間休日も当直職員と警備員と二十四時間三百六十五日、センター内に誰か一人いるようにしていたり、私たちが普段学校で行っているように防災訓練の実施をしているそうです。また、熊本大震災など横浜近辺で災害が起こっていても、発電機五台などを支給していました。この取材講習会で学んだ多くのことを今後の生活に生かしていきたいです。(若松)

これぞ横浜のシンボル

皆さんは横浜港のシンボルであるシンボルタワーというものをご存知ですか。一九八六年七月に完成され、五十八・五メートルの高さがあります。このシンボルタワーでは港に出入りする船が安全に運航できるように信号所で情報や信号を送っています。その信号や情報の送り方は、タワー内の一階にある海上保安庁・本牧船舶通航



横浜港の安全を守るタワー

信号所でタワー上部に設置してある信号版でアルファベットの文字信号を表示しています。また、無線などで海上交通の情報を流す役割などがあります。(小俣)

船と飛行機多いのはどちら?

輸出入の輸送手段と聞いて、思い浮かべるのは船や飛行機が多いと思います。その割合は、船九十九・七%、飛行機〇・三%だと言われています。それを踏まえて、なぜ船の方の割合が大きいのかを調べてみました。まず始めに、船のメリツトは「重いものを大量に運べる」「料金が安い」があり、デメリットは「輸送に時間がかかる」があります。それに対して、飛行機のメリツトは「短時間の輸送が可能」があり、デメリットは「運べる量が少ない」「料金が安い」があります。日本は資源の少ない国なので、石油や石炭などの資源は殆どが輸出ということや日本で主流の材料を輸入して製品を輸出する製品も車や電化製品です。日本が輸出入するものは大きくて重く、長時間輸送が可能なのが多いので、船が輸出入の輸送手段の割合が多いことが分かります。(若松)



海上輸送と航空輸送

突撃インタビュー

横浜港について説明してくださった京浜港湾事務局副所長の内竹さんの方にお話を伺うことができました。まず始めに、二〇一九年の二月から新型コロナウイルスが流行していますが、海運の貿易では何か影響があったのかをお聞きすると「影響はあった。貨物の量が二〇一九年までは右肩上がりだったが、流行してからは少し減り、クルーズ船は大きく減ったとおっしゃ



丁寧に教えて頂きました!

っていました。また、中国が海運に力を入れていてアジアのハブ港になりつつあるが、日本はどのような港を目指しているのかをお伺いすると「日本もIT化を進めて、効率の良い港を目指している」とおっしゃっていました。最後に、現在大きく減ったクルーズ船の受け入れはどうなっているのかとお聞きすると「ダイヤやモドブリンセスの影響で海外のクルーズ船の受け入れはしていない。日本のクルーズ船(飛鳥IIなど)のみを受け入れている。今年の秋、冬に向けて、海外のクルーズ船の受け入れ準備を始めている」とのことでした。横浜港もより多くの人や物が行き交う場になると良いですね。(小俣)

知っていますか? コンテナについて

街中あまり見ることのないコンテナですが、横浜港を見学していたところ、港には多くのコンテナを見ることができました。そこで、コンテナについて深く調べてみることにしました。海上輸送の際にコンテナを利用するメリツトとして「積み替えや梱包する手間が少なく、種類が異なる貨物を混載してパッケージにすること」「幅広い種類の貨物の輸送が可能」などがあります。コンテナの大きさは主に二十フィートと四十フィートがあり、一フィートは〇・三〇四八メートルに換算することができます。つまり、四十フィートは約十二メートルといえます。四十フィートのコンテナは世界各国で使われており、二十フィートのコンテナは主にアメリカ合衆国で使われているそうです。コンテナの種類は大きく二つに分かれます。一つ目は、側面が波々のような形をしているコンテナで「ドライコンテナ」と呼ばれています。最も一般的な箱型のコンテナであり、様々な形状のものを運ぶことが可能です。二つ目は、側面が平らな白いコンテナで「リーファーコンテナ」と呼ばれています。食品や植物、精密機械、薬品など温度を一定に保たなければならないものを運ぶことができます。

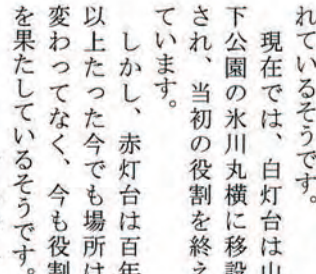


海上輸送に便利なコンテナ

コンテナが通る海上航路は決められていて、欧州航路と北米航路を国際基幹航路と呼ばれ、世界の主要航路となっています。横浜港のコンテナ取扱量は二百六十六TEUで日本国内でなんと二位です。TEUとは、二十フィートで換算したコンテナ個数を表す単位のことです。因みに、横浜港のコンテナの五十%は本牧頭にある

赤灯台・白灯台の謎

皆さんは横浜港の目印となっている赤灯台・白灯台をご存知ですか。この灯台は横浜港を近代港として開港するために作られたものです。それは、横浜近代水道を完成させたイギリス技師H.S.パーマーの設計により、一八八九年に着工し、一八九六年五月に完成しました。なぜ、海から陸に向かって港に入るときに右が赤灯台で左が白灯台なのかという謎、航路標識法というものに基づいているからです。因みに、赤灯台の灯色



赤灯台



白灯台

本牧頭はヒアリが発見された場所でも有名です。因みに、ヒアリとは毒針で刺したり、毒を浴びせる凶暴なアリとして有名です。コンテナの値上がりによって貿易の影響があるのかは船会社次第だそう。そのため、影響が出る人や出ない人がいて、物価が上がってしまっています。コンテナの所有者は国ではなく、会社だそう。今回、コンテナの種類が多いこと、所有者が会社であることを初めて知り、驚きました。(若松)

海運を支えるコンテナ

コンテナが通る海上航路は決められていて、欧州航路と北米航路を国際基幹航路と呼ばれ、世界の主要航路となっています。横浜港のコンテナ取扱量は二百六十六TEUで日本国内でなんと二位です。TEUとは、二十フィートで換算したコンテナ個数を表す単位のことです。因みに、横浜港のコンテナの五十%は本牧頭にある



コンテナの通る海上航路

編集後記

今月号も南希タイムズをご覧頂き、ありがとうございました。(若松)